

住井するゑとその文学の里(五十七)

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員

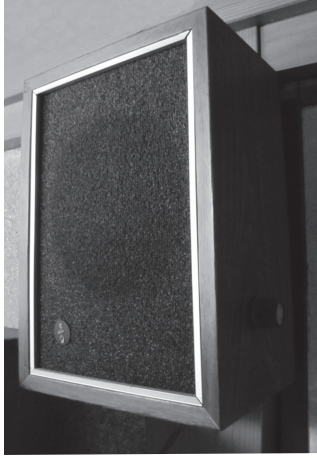
栗原 功くりはら いさお

初代町長川村衛が設置した
「有線放送電話」と「広報紙」の発行

県下に先駆け有線放送電話設置

新制牛久町が発足して、川村衛が初代町長に就任すると、まず「この町の広報活動をどうするかについて考えを巡らした」。

その結果、川村町長は、昭和31年



→昭和31年に設置された有線放送電話はその後廃止され、有線放送のみとなった。右写真のスピーカーは昭和40年代以降の有線放送スピーカーで、その有線放送も平成7年に廃止された。

(1956年)2月、県下に先駆け、有線放送電話を設置して、役場から

町民へ、農協・学校からの役場を通じて町民への諸伝達、そして町民相互間における通話を図った。

有線放送電話は、行政側に、教育の面に、また産業・農業が主に、さらに町民相互の融和を図っていくのに、効果が十分発揮された。

先進地牛久町には、全国の市や町村職員による視察があった。

広報紙刊行へ

有線放送電話の任意の設置戸数は、昭和31年12月末日現在で、900戸(全戸数は2929)に達していただけであった。この段階で川村町長が目指す広報活動の充実とは異なる状況になっていた。

川村町長は、さらなる広報活動の充実を図ることにした。広報紙を定期的に発行し、全戸配布して「町広報の周知徹底」を図ることであった。県下の市町村での広報紙創刊年度は次のようだ。

市では、県都水戸が大正11年度(1922年)、日立は昭和15年度(1940年)、土浦は昭和25年度(1950年)であった。郡部においては、県西猿島郡の五霞村が昭和24年度(1949年)、県北西茨城郡の七会村が同27年度(1952年)、県南北相馬郡取手町が同30年度(1955年)、新治郡新治村が同31年度であった。稲敷郡下では、東・新利根両村が同30年度、江戸崎町が同31年度、美浦村と牛久町が同33年度(1958年)であった。なお、創刊年度が調査で不明な市町村があった。

市では、県都水戸が大正11年度設けた広報係の係長に、昭和33年4月1日付で、いはらき新聞(現茨城新聞)記者の菅井誠六を抜擢した。編集人菅井は、既刊の県下市町村広報紙の模倣ではない、独特の創意工夫を重ねて紙面を作り上げた。そしてその広報紙は社団法人日本広報協会主催全国コンクールで、度々、上位入選を果たすなど、全国的レベルに達した。菅井は、総務課長職で退職するが、大野正雄町長(初代市長)の下で、収入役を昭和52年(1977年)7月より平成元年(1989年)6月まで務めた。

川村町長は、広報紙発行に際して、



↑広報第1号(昭和33年4月10日発行)